退職記念随筆

過去・現在・未来の皆さまに花束を贈ります

和　田　葉　子

大正時代、千里山キャンパスの南側に四季の色鮮やかな花で溢れる「千里山花壇」が開園した。やがてボート池や飛行塔、小さな動物園などが増設され、昭和には「千里山遊園」として賑わった。年を取ったとはいえ、さすがの私もこの遊園地の生き証人になることはできなかったが、学生時代の古い記憶を呼び起こしてみると、現在、博物館になっている円筒形の簡文館は図書館だった。二階に上がったところにカウンターがあって、右手の広い部屋には、たくさんのベンチと長い机が置かれていて、試験が近づくと多くの学生がそこで勉強していた。今、スタバでゆっくり宿題をする学生には、図書館や教室を含め、大学のどの建物にもエアコンがなかったあの頃のことなど想像もつかないだろう。コンピュータもない時代だったので、本の検索も50音順に並べられた多くの小さな木製の引き出しに入っている紙のカードで図書番号を調べ、カウンターで本を受け取っていた。

そして、今と同じ名称の第１学舎１号館であった建物は現在の形とはまったく異なって東西にとても長く造られていた。そのため、正門を入って左手の法文学舎の方へ傾斜のきつい、いわゆる地獄坂をどんどん上って行くと、法文研究棟の手前辺りで、第１学舎１号館が部分的に、言わば下駄ばき住宅のように、二階部分を屋根としたトンネル状になっていて、そこをくぐり抜けて２号館の方向へと歩いて行けた。第１学舎１号館には緑の綺麗な中庭もあり、ESSのメンバーがお昼休みに、大声で発音の練習をしていた。この１号館には、また、高さ４メートルを超すほどの大きな掲示板があり（学生は「休講板」と呼んでいた）、呼び出しや授業に関する連絡がある度に職員の方が踏み台に乗って、手書きの連絡事項をマグネットで止めていた。法文の学生は大学に来ると真っ先にこの「休講板」をチェックし、喜んだり、落胆したりした。そのすぐ向かい側には吹き抜け風のスロープがあって階上の教室に行けるようになっていた。第一学舎２号館は今とほとんど変わらぬ姿だったが、その向かって右の裏手には乗馬部が練習に使う馬場があった。実際、キャンパス内を学生の乗った馬が普通に闊歩していた。したがって、時には馬が歩いた証拠品も落ちていた。

現在の以文館の辺りには白い木造の大学ホールがあって、その当時にしてはモダンでお洒落な建物だった。そこには大学院の研究科に割り当てられた院生の合同研究室がいくつか並んでいた。二階に小さな角部屋があったのだが、気がつけば、このスペースを、ある院生が単位を取って出てゆくまで何年も独り占めしていた。彼は古今東西の映画のことなら何でも知ってい

た（確か、好きな女優は原節子だと言っていた）。不思議なことに他の院生も教員も彼の不法占拠を黙認していて、本人も当たり前のように部屋を自分の書斎として使い続けていた。そんなおおらかな時代であった。そして、この瀟洒な建物の地下には、コロセウム型の急な階段教室があり、特別講義などが行われていた。この地下室が復元されることなく建物ごと全部無くなってしまったのは非常に残念である。

学生、教員、研究者として関西大学で過ごした長い時間を振り返ると、様々な懐かしい風景（関大前の駅すぐのところに大学温泉という銭湯があった…）とともに思い出されるのは、恩師の方々、親しくしてくださった同僚たち、いつも親切に支えてくださった職員の皆様、そして未来へと羽ばたく明るく素直な学生たちである。そして、ブリティッシュカウンシルフェロウとして留学して以来、長年にわたり生活の場にもなったケンブリッジで教えてくださった先生方や一緒に学び、今は研究者として活躍している友人たちとの知的交流のお蔭で、私の研究対象は 180 度といってもよいほど方向転換し、中英語だけでなく、ラテン語や古フランス語も含む作品を収録した中世の写本に焦点を合わせることになった。退職後は研究時間が十分に取れるので、じっくり読み、書き、さらなる成果を国内外で発表出来ることをとても楽しみにしている。学内外の仕事で忙しい私をどんな時も見守ってくれた大切な家族に恩返しする時間が出来るのも嬉しい。

「千里山花壇」は、とうの昔になくなってしまいましたが、お世話になった皆様に関西大学という美しい花壇から、そして私の研究と、思いの外、私の人生にも深く関わることになったイギリスとアイルランドとアメリカのアカデミアの花園から摘み取った心の花束をお贈りします。皆さま、長い間、お世話になり本当に有難うございました。

追伸：学部・研究科ホームページの「教員紹介」には私の顔写真の代わりに、偶然、大阪中之島の堂島川に浮かんでいる巨大なラバーダックを見つけたときに撮った写真を選びました。それはオランダのアーティスト Florentijn Hofman が手掛けた Rubber Duck Project の一環で、この場違いにも見えるアヒルは現在も旅を続け、世界各地の身近な川や海に出現しています。今日は、国境のない世界の幸福を象徴する純真無垢なラバーダックと同じ黄色の薔薇の花束の写真を選んでみました。花言葉は友情です。